

**DPUB**

## ウランバートル市における障害者の 社会参加促進プロジェクト



ニュースレター第2号  
2017年10月



### チンゲルテイ区労働福祉サービス課に

#### 障害者用駐車スペース設置！

9月7日、チンゲルテイ区労働福祉サービス課で障害平等研（DET）を行いました。参加したのは課の職員33人。ボロローさん（脳性マヒ）、ボルドバートルさん（視覚障害）がファシリテーターを担当し、「障害」はどこにあるか？を発見した後、「チンゲルテイ区をアクセシブルにするには」を皆で考えました。ウヤンガさん（脳性マヒ）やチュカさん（肢体不自由）もグループワークに参加。入り口の段差やスロープの角度、手話人材の不足といった様々な問題点を挙げ、「私達にできる改善策」をまとめました。それから数週間後、改善策の一つである「障害者要駐車スペースの設置」が実現しました。これまで駐車に困っていた障害のある人達にとって何よりも嬉しいニュース。予算が限られている中で、労働福祉サービス課の職員が「優しい街づくり」に熱心に取り組んだ成果です。



### 見て、聞いて。DAISY録音図書体験会

10月11日（水）、知的障害のある青年たち11名に、モンゴル語版の音声絵本（マルチメディアDAISY）を紹介しました。青年たちのほか、NGO「親の会」と「虹の会」の支援者、作成者である視覚障害者協会のゴンチゴさん、労働・社会保障省のガンボルドさん、松本協力隊員、そしてプロジェクト磯部専門家が参加して、意見交換もしました。モンゴル語版の「かさじぞう」を鑑賞した後、DAISY図書大好きザヤさんが、普段どのようにDAISYを使って勉強しているかを紹介。ハイライトされた文字を追い、音読している様子を、堂々と実演してくれました。参加していた支援者からは、「もっと重い子どもたちにも見せてみたい。」という感想や「発音が良くなりそう。」といった感想が聞かれました。皆、楽しんでくれました！



モンゴル語のDAISY絵本の第2弾、「てんと・てん」が完成しました。作成者の視覚障害者協会のゴンチゴさん、ありがとうございました！11月10日に、ダウン症協会では上映会を開催予定です。

### モンゴルのDET、100回達成！

今年1月から始動した障害平等研修（DET）は、10月に実施100回、参加者は3000人を越えました。「環境が整い、差別が解消されれば、障害をなくすことができる」。これに気づいてもらうため、行政や学校、企業にもDETを行っています。10月26日、子ども電話相談センターで実施した際、日本から国際協力の月刊誌「Mundi」の記者が取材に訪れました。インタビューに答えたファシリテーターは、声をそろえて「ファシリテーターになって毎日忙しくなった」、「人前で話した経験がなかったが、DETを通じて、先ず自分自身が変わった」と語ってくれました。



## 若手障害者リーダー勉強会2回目の実施

最後の公民権運動と呼ばれるアメリカ障害者運動について講義しました。自立生活運動を中心に、リハビリテーション法504条や障害を持つアメリカ人法（ADA）の成立過程、その時の運動の役割や成果などについて説明しました。アメリカの障害者運動は力強く、日本でも参考にしているの、モンゴルにも参考になればと思っています。若手障害者リーダーと題してありますが、この勉強会は、行政官・シニア・福祉関係者にも聞いて頂きたいと思っています。ただ昨日も60名の方に来て頂き満席でした。嬉しい悲鳴です。今回は、学校の授業のように白板を活用したつもりですが、次回はもう少し写真やビデオを使い、さらに質問形式・参加型にして2時間を楽しく勉強できるようにしたいと思います。次回、11月22日になります。皆さんの参加をお待ちしています。



## 視覚障害者向けの日本語教室開催

前回お知らせした日本語教室ですが、10月22日（日）に視覚障害者・職業訓練学校で第一回目が無事開催されました。今回の生徒さんは3名です。挨拶言葉、教室で使う言葉と50音の練習をしたそうです。授業を担当頂いた斎藤先生、渡辺先生、本当にありがとうございます。またガンゾリグ校長先生とマンダハ先生にも感謝申し上げます。生徒の皆さんが日本語を勉強し、いつか日本にも行ける日が来れば良いな〜と思っています。



## 第29番学校（聴覚障害者の特別支援学校）に行ってきました。

来年卒業を控える高校生もいる中で、教育の大切さ、そして社会での可能性など日本の事例を話して欲しいと依頼されました。そこでまず「障害の社会モデル」について説明し、我々のプロジェクトが「社会の障壁」を削減するプロジェクトであることを伝え、政府と障害者団体と協力して活動していることを伝えました。「障害の社会モデル」を初めて聞いた生徒が多く、障害は個人の問題ではなく社会の問題と伝えたところ、もっと詳しく知りたいと多くの生徒が言ってくれました。そこで「若手障害者リーダーの勉強会」について紹介し、また「DASUKIN研修」についても紹介させて頂きました。若者の熱気を感じ、講演を依頼してくれたドヤさんに感謝しています。



寒いですね。日本人にはつらくなってきました。こんにちは、DPUBの千葉です。私はよく人から「途上国の障害者を支援するなんて偉いですね」と少し照れるようなことを言われます。でも私には、そんな気はさらさら無いのです。私は弱者を助ける正義のヒーローではありません。ただ昔、「障害者が住みよい社会は、すべての人にとって住みよい社会ですよ」と言われ、はっとしたことがあります。確かにそうですよね。障害者が住みやすかったら、すべての人が住みよい社会になりませんか？ そうそう私の仕事は、皆が住みよい社会を作る社会開発プロジェクトなんです。そう考えると、なんかワクワクしませんか？ 私はこの言葉が好きで、社会を作る仕事っていうと、ちょっとカッコイイと思ってしまう。モンゴルをすべての人が住みよい社会にしたい、そう思って毎日仕事をしています。



DPUBチーフアドバイザー 千葉寿夫

Office: Government Building – 2, United Nation’s Street – 5, Ministry of Labor and Social Protection Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

Facebook: <https://www.facebook.com/jicadpub>

Website: <https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>

E-mail: [dpub.jica@gmail.com](mailto:dpub.jica@gmail.com)